

JAITI 14

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる権利」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 (財)日本農業研修場協力団
住所 〒386-0602 長野県小県郡武石村沖456
TEL0268-85-3465 FAX0268-85-3583

今日のジャイチ

一九九八年、あけましておめでとございませう。

四千人の村を拠点とした

活動を、継続可能に支えて

下さる、全国の皆様に改め

て、厚く御礼申し上げます。

二月七日(土)から、長野冬

季オリンピック大会が始ま

ります。会場へお越しの折

は、帰り道に、武石村のジ

ヤイチ事務局へ、お立ち寄

りの計画もして下さい。

お待ち致しております。

JAITI十三号をお届

けしてから、今日までの動

きを、お知らせします。

◆ネパールへの支援事業

・カカニ農場は、他国際農

林業協会の助成を受け、

松浦浩評議員が指導に赴き、

十二月二十一日に帰国しま

した。

農場の自立方向と、この

農場の最終目標である、私

達が農村開発に協力させて

いただいた、全てのこと

が、農民自身の手に移転可能

な方向も出始めています。

◆国内の動き

・パリや写真展を、今年

も各地で開催しました。お

立ち寄り下さった方、ご協

力の方々へ、厚く御礼を申

上げます。

・ツイリン・シネルバ君は、

日本語学校卒業後、お一人

の支援者のご好意で、学費

を全額支弁していただき、

専門学校への留学を続けて

います。

(ジャイチネパール、マン

・シネレス、文責・菊池

・シネレス)

・シネレス)

・シネレス)

・シネレス)

・シネレス)

・シネレス)

・シネレス)



「登校して開門を待つ生徒」写真機が向けられていることに気付いた子供たち、それぞれの表情が豊かで個性的。Vサインなどは見かけない。

附による、生徒三〇〇人収容規模の講堂を建設していただきます。講堂という大きな建物を造るのを機に、今迄に建設した各建物の点検と、今後の安全維持管理、講堂の施工指導に、他国際建設技術協会の助成を受け、調査員の派遣も決まり、一月末から二月に実施します。生徒は、五学年五クラス、一四三名がこの一年間学びました。今は学期末休みに入っており、二月より新学期を迎えます。この報告を蓄く段階では、まだ進級試験が終了していませんから、各学年で何人が留年し、何人が進級し、何人の中途入学者を迎えるのか決まっています。生徒総数が、六学年六クラス、一八〇人になることは決まっています。新学斯からの大きな出来事は、初等中学過程が始まることです。ネパールの現学校教育制度は、教育・文化・社会福祉監督のもと、小学五年、初等中学二年、中等中学二年の十学期を目標としていますが、この指導に準じています。昨年九月には、日本人ボランティアの手により、新学期時に測定した身体表を



リファームした衣類を持ち、先生と共同作業をしているボランティア

基に、古衣を作り直した生徒各人に合わせた衣服が届けられ、ネパールで一番のお祭りグサインの贈り物として渡されました。生徒、父兄の喜びの声を聞いて、ボランティアの人は、今年は一八〇人分を用意しなればと、今から張切っています。

- ①アフリカ村おこし・ボレボレクラブ (岡田拓美担当)。(岐阜県大野町)
- ②ネパール料理講習会 (岡田めぐみ担当)。(九月二十三日)。(埼玉県鴻巣市)
- ③国際協力フェスティバル (佐瀬万蔵担当)。(十月四日・五日)。(東京都日比谷公園)
- ④このまちでNGO (近藤博志担当)。(十一月三十日)。(愛知県刈谷市)
- ⑤ネパールNGOフェスティバル (玉木直樹担当)。(十月七日)。(東京都世田谷区)
- ⑥上小地区高岡郵便局ボランティア写真展。(各郵便局長担当)。(十月から十一月)。(有難うございました)。
- ⑦講演会も国際ボランティア論や、ネパールの学校事情を各地で実施しました。群馬県高崎市、東京都立川市、長野県長野市、新潟県白根市、長野県上田市、愛知県刈谷市、三重県津市の皆様、ご審聴に感謝申し上げます。
- ⑧ツイリン・シネルバ君は、日本語学校卒業後、お一人の支援者のご好意で、学費を全額支弁していただき、専門学校への留学を続けています。

ネパール情報

- ◆改善された手続き要点
- (4) 機械類と原材料の輸入の簡素化(事業者、商業者、ネパール政府銀行からの推薦状とか、輸入許可は不要になり、輸入に必要な信用状開設は、どの商業銀行でも窓口となる)。
- (5) 最小限の認可手続き(安全、環境、公衆衛生に影響を及ぼす業果以外は、営業許可を必要とせず、関係省庁に登録するだけである)。
- (6) 決定に必要な時間(許可、登録及び、税金の払戻しに要する時間は、申請日から、それぞれ30・21・60日以内と、はっきり明言)。
- (7) 利用機関の透明性(色々な部門の業界に、有効な機関と資金利用について、その不明確さを疑うために、法令ではっきりと説明されている)。
- (8) 利益金、配当金、技術・経営管理料、外国人熟練者給与の返還金は保証されている。特別使用料及び、手数料に対する所得税は、15%と固定している)。
- (9) 投資調査用観光外査証も含む査証、熟練者用観光査証、商業査証、外国からの投資家のための居住用査証が用意され、手続きが更に簡素化された)。

◆国内の動き

・パリや写真展を、今年も各地で開催しました。お立ち寄り下さった方、ご協力の方々へ、厚く御礼を申し上げます。

・ツイリン・シネルバ君は、日本語学校卒業後、お一人の支援者のご好意で、学費を全額支弁していただき、専門学校への留学を続けています。

・パリや写真展を、今年も各地で開催しました。お立ち寄り下さった方、ご協力の方々へ、厚く御礼を申し上げます。

・ツイリン・シネルバ君は、日本語学校卒業後、お一人の支援者のご好意で、学費を全額支弁していただき、専門学校への留学を続けています。

の誠深根



山頂から見る山頂

シンパンジャン訪問記

バスは故障していた。こう料金は二〇〇ルピー。日本円に換算すると約四〇〇円といったところか。一九九七年十一月現在。

カトマンズからシンパンジャンまでは八十数キロ。マハバラト山中のこの山村にわたしが行くのはこれがはじめてである。わたしはヒマラヤ登山とシェルパ族のかかりについての本を書こうとしているのだが、そのなかでアンタルケイというシェルパを取材していた。すでに亡くなったシェルパである。

現在、ジャイチが学校を開設しているシンパンジャンの谷間に農場をひらいて、そこでアンタルケイは晩年を過ごしたのだ。アンタルケイの死後一九九三年七月、土石流の発生で農場は崩壊したが、本を書くにあたって、その時地をこの目で確かめたかったのだ。

タクシーでカトマンズを出発したのち、タンゴット峠を越えたところのノウビセで昼食をとり、そこから山腹につづら折りになってつづく道を登り詰め、峠を越えて山腹を下り、また登りつづけるとダマン峠につく。峠のちかくにはリゾートホテルが建っている。

道中、北の空をさききってつらなるヒマラヤの氷雪帯が眺められた。山腹に耕

作された階段畑をからしなの黄色い花やソバの薄紅色の花が埋め尽くし、桜が咲き、おりしも小春日和の陽ざしをあびて、のどかにたたずむ山村風景は花の咲き匂う季節を迎えていた。

ダマン峠への登り道でタクシーはエンゴを繰り返し、ついにはリゾートホテルの入口付近で動かなくなりました。ここから歩いて行くのはいいけれど、終点まで到着しないのに食だけ

は最初に決めた満額を運転手から要求されて、わたしとしては困った。契約不履行というものだ。私はいくても、わたしたちの社会通念からすると満額は払えないではないか。

リゾートホテルの従業員も出てきて故障の修理を手伝ってくれていた。この間、わたしたちはホテルを見学したのだが、戻ってくると、幸いなことにタクシーの故障はなおっていた。ふたた

は最終に決めた満額を運転手から要求されて、わたしとしては困った。契約不履行というものだ。私はいくても、わたしたちの社会通念からすると満額は払えないではないか。

リゾートホテルの従業員も出てきて故障の修理を手伝ってくれていた。この間、わたしたちはホテルを見学したのだが、戻ってくると、幸いなことにタクシーの故障はなおっていた。ふたた

てから、わたしたちは夕食の準備がととのうまでの間、谷間の後方のインドの平原に夕陽が沈んでゆくのを眺めていた。

学校の先生方は、突然の訪問にもかかわらず、わたしたちにきかめて親切だった。なんと、ニワトリを一羽つづけてくれたのだ。

夕食後、満天の星空をよぎる流れ星を眺めてたのしんだ。

(青森県 弘前市)

シンパンジャン行きのバスは、カトマンズの中央郵便局前の広場から朝七時に発車する。数日に切符を購入し、発車時刻の一時前前に広場に行った。常宿にしているホテル・サンセットビュースタイルを出たのは、まだ夜明け前の、静まり返った薄闇が漂う午前五時半だった。ホテルのちかくに住むスタイルがタクシーをつかまえて迎えに来てくれたのだ。

バス発着所の広場では、前日の打ち合わせどおり、アヌー・シエルバがわたしたちを待っていた。アヌーもまたスタイル同様、わたしとは旧知の仲だ。

わたしたちが乗るはずの

バスは故障していた。こう料金は二〇〇ルピー。日本円に換算すると約四〇〇円といったところか。一九九七年十一月現在。

カトマンズからシンパンジャンまでは八十数キロ。マハバラト山中のこの山村にわたしが行くのはこれがはじめてである。わたしはヒマラヤ登山とシェルパ族のかかりについての本を書こうとしているのだが、そのなかでアンタルケイというシェルパを取材していた。すでに亡くなったシェルパである。

現在、ジャイチが学校を開設しているシンパンジャンの谷間に農場をひらいて、そこでアンタルケイは晩年を過ごしたのだ。アンタルケイの死後一九九三年七月、土石流の発生で農場は崩壊したが、本を書くにあたって、その時地をこの目で確かめたかったのだ。

タクシーでカトマンズを出発したのち、タンゴット峠を越えたところのノウビセで昼食をとり、そこから山腹につづら折りになってつづく道を登り詰め、峠を越えて山腹を下り、また登りつづけるとダマン峠につく。峠のちかくにはリゾートホテルが建っている。

道中、北の空をさききってつらなるヒマラヤの氷雪帯が眺められた。山腹に耕

作された階段畑をからしなの黄色い花やソバの薄紅色の花が埋め尽くし、桜が咲き、おりしも小春日和の陽ざしをあびて、のどかにたたずむ山村風景は花の咲き匂う季節を迎えていた。

ダマン峠への登り道でタクシーはエンゴを繰り返し、ついにはリゾートホテルの入口付近で動かなくなりました。ここから歩いて行くのはいいけれど、終点まで到着しないのに食だけ

は最初に決めた満額を運転手から要求されて、わたしとしては困った。契約不履行というものだ。私はいくても、わたしたちの社会通念からすると満額は払えないではないか。

リゾートホテルの従業員も出てきて故障の修理を手伝ってくれていた。この間、わたしたちはホテルを見学したのだが、戻ってくると、幸いなことにタクシーの故障はなおっていた。ふたた

は最終に決めた満額を運転手から要求されて、わたしとしては困った。契約不履行というものだ。私はいくても、わたしたちの社会通念からすると満額は払えないではないか。

リゾートホテルの従業員も出てきて故障の修理を手伝ってくれていた。この間、わたしたちはホテルを見学したのだが、戻ってくると、幸いなことにタクシーの故障はなおっていた。ふたた

てから、わたしたちは夕食の準備がととのうまでの間、谷間の後方のインドの平原に夕陽が沈んでゆくのを眺めていた。

学校の先生方は、突然の訪問にもかかわらず、わたしたちにきかめて親切だった。なんと、ニワトリを一羽つづけてくれたのだ。

夕食後、満天の星空をよぎる流れ星を眺めてたのしんだ。

(青森県 弘前市)

技術(淡水魚の養殖)の指導をした事のある県議員の佐藤さんが、教えてくれることになりました。

佐藤さんが、ネパールへ来る前に学習した時の先生は、ロブサン・サンジン・シエルバ氏です。

佐藤先生が、一生懸命教えてくれるのに、語学音痴の私のこと遅々として進まずです。

でも、年に一度でも良いから、ネパール語のたよりを交換したいものです。

来年、七月中旬頃に、二週間程ネパールに出かける予定でありますから、事前の連絡を取合せて、是非とも、すこやかに成長した聡明な少年に会うことを楽しみにしています。その時、ネパール語で話はずんたらどんなに嬉しいことか。

(岩手県盛岡市)

よりだより

笠原 直枝



▲バルデューン君(中央後方)

バルデューン君の休日、バルホテルに伺いたいと言われたのですが、丁度、その前日から、四人でボカラに行くことになっており、会えずじまいでした。

今年、八月には、カカニの農場に行きましたが、ご両親とは、行き違いで、おばあさんにお目にかかったのみでした。

少し距離を置いて接したいと考えていましたので農場の松浦さんを通じて、写真や成績表が、送られると隊員としてネパールに水産

という受身の姿勢でした。昨年暮に、ネパール語の手紙でも何とか読めそうと伝えて貰ったら、ネパール語(二〇五三年二月)一九九七年二月)初めての手紙が届きました。しかし、心配だったのでしょうか、英語の手紙も同封されていました。

私も、苦勞してネパール語の短かい返事を書きました。ネパール語を習いたいと考えたのは、シンパンジャンの学校の子供たち、カカニ農場や村の人達と話すことが出来たら楽しいだろうと思ったのが、切っ掛けでしたけれど、盛岡では、無理なことと半ば諦めていたところ、ネパールで撮った写真が縁でチャンスがやってきました。

二十年前、青年海外協力隊員としてネパールに水産

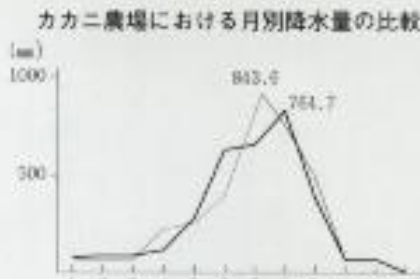
今、カカニ農場では

現在、社団法人国際農林業協力協会（AICAF）のNGOに対する専門家派遣支援事業により、六月十二日より六ヶ月間の予定で滞在しておりますので、この間の農場の様子について報告致します。

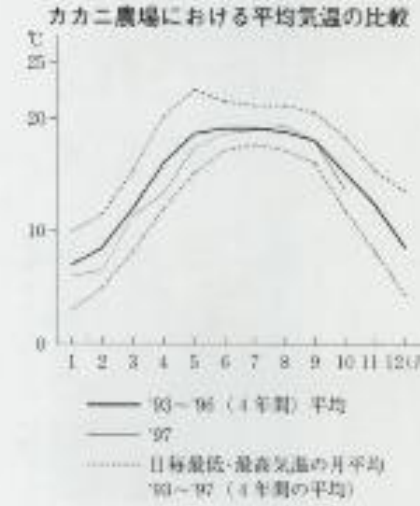
今回の目標は、農場内の灌漑水施設の整備、そして私の農場滞在期間も、AICAFからの派遣も五年目となり、それ以前の滞在も含めると、六年以上経過しましたので、メンバーとスタッフによる自主運営への引継ぎを中心に、仕事をこなしております。

畑の整備事業については、まだ継続する必要もありませんが、現在の状態で一定終了として、補修程度に留めて整備した畑の土づくりを力を入れております。

今年の天候不順は、前号にも得ましたが、一九九三年から九六年までの四年間のみですが、この間の平均と今年の比較を別表に書きましたので、参考にしていただけたらと思います。



カカニ農場における月別降水量の比較
 (mm)
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12(月)
 — 90-96 (4年間) 平均
 - - 97



カカニ農場における平均気温の比較
 度C
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12(月)
 — 90-96 (4年間) 平均
 - - 97
 日最高最低最高気温の月平均
 90-96 (4年間の平均)

今年には育苗土も燻土・粉砕した堆肥・モミガラ・砂を混合して作り直しました。また、育苗中の施肥試験も行ないましたが、大雨のため化成肥料は流されてしまいました。この地で購入可能なナタネ粕と骨粉を混ぜ、水を加えておき、一週間程度置いてから、畝への施肥のように施用しましたが、六月下旬で終了し、七月に入りランナーの切り離しに整地を行ないましたが、根を喰べたコウモリが、ポットの害が相変わらず多く、一株一株確認して虫が居る場合には取り出して虫に与えるなど、この害虫対策が育苗中の一番大切な作業となっております。

そして、施肥、殺虫剤の灌漑を行なった後、八月下旬から九月上旬にかけて予定どおり定植は終了しました。育苗期が雨季のため、ポット内の排水対策が必要で、方が良い感じですが、育苗中

二回行なえば良いのですが、降雨量が多いため、最初はポットの苗を取り出して、確認した方が手間はかかりますが良いようです。

定植も条間四十と四十五センチ、株間も二十五と三十センチで試験し、ベントも可能な限り高くしました。雨の中のための定植後数は流れ出した土を再度盛り上げ補修する必要があります。

昨年作成した貯水タンクや堆肥舎の補修も行ない、堆肥舎には雨トコも取り付けましたので、降雨中の運び出し作業も余り苦にならなくなりました。

全額の水灌漑施設も、畑の整備がほぼ終了したので、今までのラインから二ライン増やして、下方の新しい畑にも、草が栽培できるようにしました。

一方、排水施設も、雨季中の排水はもとより、乾季でも数ヶ所からの排水処理に苦労しておりますが、新設することができ、今後は作業も容易に、また広い畑とする事ができました。

上部の畑は、堆肥の運搬は作業面でも不便でもあり土質も良くないので、雨季にクヌギを植えました。落葉中に植えるのが普通なのですが、こちらでは降雨もほとんどなく、土が乾燥し

て固くなっていますので、どうしても降雨中の定植となってしまいます。

その他、畑の周囲をコンクリート製の柱とバラ線で囲ってありますが、近所で飼っている山羊や猪、大きなハリネズミなどの侵入を防ぐため、勿論人間もですが、以前こちらで仕事をしていた日本企業から購入していた金網を取付けました。

しかし、すべてに取付ける事は不可能ですので、一部分だけですが、効果はあるものと思っております。

ゴボウも土質的には良くありませんが、種子を毎年日本から持ってくるのも大変です。採種を行ないました。但し、開花期以降降雨が多く、採取時株内の発芽もみられました。多くの種子を得ることができました。発芽試験はしておりますので、発芽率の心配もありませんが、播種前の浸水時に浮いた物は捨てれば良いと思っております。

この種子が良ければ、交配種のキヤベツ・カリフラワー・ブロッコリーなどもこちらで日本の品種が安く購入できますので、日本から持って来る種子は、ほとんどなくなると思います。栽培した作物の結果として、栽培した作物の結果として

て、前号にも書きましたがカリフラワーとブロッコリーは、春の降雨、低温により定植は中止してしまいました。キヤベツ・コールラビは順調に生育しました。また、コールラビの販売には苦労し、完売できず一部は牛の飼料としてしまいました。雨季の始まる六月定植のキヤベツも順調に生育し、新しい広い畑に栽培した大根と共に畑で販売してしまいました。

また、苗の育ちの悪かったサツマイモは、一部六月中旬に定植してありましたが、堆肥不足というところからそのままにありましたので、急いでケイソン堆肥を購入して、やはり残っていた大豆と共に、植付け、播種したのですが、七月になつてしまえば収量も少なく、適期植付けの必要性を、ス

タッフは身を持って経験したことと思います。

現在は十一月中旬ですが、毒は一日置きに収穫、サツマイモは適時に収穫し、毒と共に出荷しております。

今年の草刈りは五十名強となり、植付本数も昨年の数倍の約十万余株と増え、最初六株持参した苗がこのように増え驚いています。品種は「女峰」ですが、農場では他に二品種を試験栽培しておりますが、買より量、そして果皮が比較的硬く店持ちの良い女峰が良いようです。集荷・販売も今後を案じ、農場の他二グループに分けてそれぞれスタッフが代表となり、責任をもって行なっております。価格も昨年と同じで話がまとまり、毒の紹介と消費拡大のため、近いうちに新聞に広告をだす予定です。

最後に、長年お世話になりました社団法人国際農林業協力協会（AICAF）始め、ジャイチの活動にたいしてご支援下さっております。そしてこの農場が見本となり、地域農業振興の一段とならん事を祈っております。

(農業指導員 松浦 浩)

今年には育苗土も燻土・粉砕した堆肥・モミガラ・砂を混合して作り直しました。また、育苗中の施肥試験も行ないましたが、大雨のため化成肥料は流されてしまいました。この地で購入可能なナタネ粕と骨粉を混ぜ、水を加えておき、一週間程度置いてから、畝への施肥のように施用しましたが、六月下旬で終了し、七月に入りランナーの切り離しに整地を行ないましたが、根を喰べたコウモリが、ポットの害が相変わらず多く、一株一株確認して虫が居る場合には取り出して虫に与えるなど、この害虫対策が育苗中の一番大切な作業となっております。

そして、施肥、殺虫剤の灌漑を行なった後、八月下旬から九月上旬にかけて予定どおり定植は終了しました。育苗期が雨季のため、ポット内の排水対策が必要で、方が良い感じですが、育苗中

二回行なえば良いのですが、降雨量が多いため、最初はポットの苗を取り出して、確認した方が手間はかかりますが良いようです。

定植も条間四十と四十五センチ、株間も二十五と三十センチで試験し、ベントも可能な限り高くしました。雨の中のための定植後数は流れ出した土を再度盛り上げ補修する必要があります。

昨年作成した貯水タンクや堆肥舎の補修も行ない、堆肥舎には雨トコも取り付けましたので、降雨中の運び出し作業も余り苦にならなくなりました。

全額の水灌漑施設も、畑の整備がほぼ終了したので、今までのラインから二ライン増やして、下方の新しい畑にも、草が栽培できるようにしました。

一方、排水施設も、雨季中の排水はもとより、乾季でも数ヶ所からの排水処理に苦労しておりますが、新設することができ、今後は作業も容易に、また広い畑とする事ができました。

上部の畑は、堆肥の運搬は作業面でも不便でもあり土質も良くないので、雨季にクヌギを植えました。落葉中に植えるのが普通なのですが、こちらでは降雨もほとんどなく、土が乾燥し

て固くなっていますので、どうしても降雨中の定植となってしまいます。

その他、畑の周囲をコンクリート製の柱とバラ線で囲ってありますが、近所で飼っている山羊や猪、大きなハリネズミなどの侵入を防ぐため、勿論人間もですが、以前こちらで仕事をしていた日本企業から購入していた金網を取付けました。

しかし、すべてに取付ける事は不可能ですので、一部分だけですが、効果はあるものと思っております。

ゴボウも土質的には良くありませんが、種子を毎年日本から持ってくるのも大変です。採種を行ないました。但し、開花期以降降雨が多く、採取時株内の発芽もみられました。多くの種子を得ることができました。発芽試験はしておりますので、発芽率の心配もありませんが、播種前の浸水時に浮いた物は捨てれば良いと思っております。

この種子が良ければ、交配種のキヤベツ・カリフラワー・ブロッコリーなどもこちらで日本の品種が安く購入できますので、日本から持って来る種子は、ほとんどなくなると思います。栽培した作物の結果として、栽培した作物の結果として

て、前号にも書きましたがカリフラワーとブロッコリーは、春の降雨、低温により定植は中止してしまいました。キヤベツ・コールラビは順調に生育しました。また、コールラビの販売には苦労し、完売できず一部は牛の飼料としてしまいました。雨季の始まる六月定植のキヤベツも順調に生育し、新しい広い畑に栽培した大根と共に畑で販売してしまいました。

また、苗の育ちの悪かったサツマイモは、一部六月中旬に定植してありましたが、堆肥不足というところからそのままにありましたので、急いでケイソン堆肥を購入して、やはり残っていた大豆と共に、植付け、播種したのですが、七月になつてしまえば収量も少なく、適期植付けの必要性を、ス

タッフは身を持って経験したことと思います。

現在は十一月中旬ですが、毒は一日置きに収穫、サツマイモは適時に収穫し、毒と共に出荷しております。

今年の草刈りは五十名強となり、植付本数も昨年の数倍の約十万余株と増え、最初六株持参した苗がこのように増え驚いています。品種は「女峰」ですが、農場では他に二品種を試験栽培しておりますが、買より量、そして果皮が比較的硬く店持ちの良い女峰が良いようです。集荷・販売も今後を案じ、農場の他二グループに分けてそれぞれスタッフが代表となり、責任をもって行なっております。価格も昨年と同じで話がまとまり、毒の紹介と消費拡大のため、近いうちに新聞に広告をだす予定です。

最後に、長年お世話になりました社団法人国際農林業協力協会（AICAF）始め、ジャイチの活動にたいしてご支援下さっております。そしてこの農場が見本となり、地域農業振興の一段とならん事を祈っております。

(農業指導員 松浦 浩)

最後に、長年お世話になりました社団法人国際農林業協力協会（AICAF）始め、ジャイチの活動にたいしてご支援下さっております。そしてこの農場が見本となり、地域農業振興の一段とならん事を祈っております。

(農業指導員 松浦 浩)

最後に、長年お世話になりました社団法人国際農林業協力協会（AICAF）始め、ジャイチの活動にたいしてご支援下さっております。そしてこの農場が見本となり、地域農業振興の一段とならん事を祈っております。

(農業指導員 松浦 浩)

今年には育苗土も燻土・粉砕した堆肥・モミガラ・砂を混合して作り直しました。また、育苗中の施肥試験も行ないましたが、大雨のため化成肥料は流されてしまいました。この地で購入可能なナタネ粕と骨粉を混ぜ、水を加えておき、一週間程度置いてから、畝への施肥のように施用しましたが、六月下旬で終了し、七月に入りランナーの切り離しに整地を行ないましたが、根を喰べたコウモリが、ポットの害が相変わらず多く、一株一株確認して虫が居る場合には取り出して虫に与えるなど、この害虫対策が育苗中の一番大切な作業となっております。

そして、施肥、殺虫剤の灌漑を行なった後、八月下旬から九月上旬にかけて予定どおり定植は終了しました。育苗期が雨季のため、ポット内の排水対策が必要で、方が良い感じですが、育苗中

二回行なえば良いのですが、降雨量が多いため、最初はポットの苗を取り出して、確認した方が手間はかかりますが良いようです。

定植も条間四十と四十五センチ、株間も二十五と三十センチで試験し、ベントも可能な限り高くしました。雨の中のための定植後数は流れ出した土を再度盛り上げ補修する必要があります。

昨年作成した貯水タンクや堆肥舎の補修も行ない、堆肥舎には雨トコも取り付けましたので、降雨中の運び出し作業も余り苦にならなくなりました。

全額の水灌漑施設も、畑の整備がほぼ終了したので、今までのラインから二ライン増やして、下方の新しい畑にも、草が栽培できるようにしました。

一方、排水施設も、雨季中の排水はもとより、乾季でも数ヶ所からの排水処理に苦労しておりますが、新設することができ、今後は作業も容易に、また広い畑とする事ができました。

上部の畑は、堆肥の運搬は作業面でも不便でもあり土質も良くないので、雨季にクヌギを植えました。落葉中に植えるのが普通なのですが、こちらでは降雨もほとんどなく、土が乾燥し

て固くなっていますので、どうしても降雨中の定植となってしまいます。

その他、畑の周囲をコンクリート製の柱とバラ線で囲ってありますが、近所で飼っている山羊や猪、大きなハリネズミなどの侵入を防ぐため、勿論人間もですが、以前こちらで仕事をしていた日本企業から購入していた金網を取付けました。

しかし、すべてに取付ける事は不可能ですので、一部分だけですが、効果はあるものと思っております。

ゴボウも土質的には良くありませんが、種子を毎年日本から持ってくるのも大変です。採種を行ないました。但し、開花期以降降雨が多く、採取時株内の発芽もみられました。多くの種子を得ることができました。発芽試験はしておりますので、発芽率の心配もありませんが、播種前の浸水時に浮いた物は捨てれば良いと思っております。



こぼりの種子の採取

行ってきました。ネパールへ。体は日本に強かにあるらしいけれど、頭と心はネパールに染まっています。

日本に戻った翌日、出版社のものか話の流れについていけず、苦笑されたり「アルツハイマー・病人」と言われたり「それが何で悪いの？」とすんなり受け止めている私がある。その上ニコニコしている。(やっばり、おかしい?)

旅つてTVのドキュメンタリー番組とは違い、カメラ・シャベルも入らず、一・二時間で終わるわけでも無くその場に自分を置いている限り、目を閉じている以外はすべて楽しいことも理解を越えることも何もかも、でもわかるのはこの二つ。

ここはどこ？ 私はだれ？

菅野早苗

一切合切容赦なく目の前にパンパン現実をたたきつけてくる。

「だから……私の頭も心もバラバラ……」「ここはどこ？」「私はだれ？」ここは日本・私は早苗……あ、大丈夫。しっかりわかっている。でもわかるのはこの二つ。



▲筆者とヒマラヤ山科

今私に出来ることは、ネパールで見て感じた様子を私の言葉で一人一人に丁寧に伝える事だと思ふんです。でもね、頭の中真っ白で何から話していいかわかんないんです。

そんな状態で友達数人に「帰ってききましたコール」を言いました。そしたら「その内ゆっくり思い出しますよ。焦らないことですよ!」「引き出しにしまっておいて、後からゆっくり見るといいわよ!」内容がバラバラでも話す事で、心に定着するかもしれないわよ!「今のその思いを、とにかく書いておいたら」と沢山のアドバイスを戴きました。

私のこのままでもいいんだと思え嬉しかった! 友達に又助けられました。

「こんな混乱していても、具体的な質問をしてもらえるとゆつくりだけれど、答えられるという事を知りました。」

そして友達と言え、忘れてならないのは今回の旅でも一緒に全員の方々、八十才から十九才、二十人程のまさに一大家族。全員

一人参加の初めて逢う顔なのに、目を追うことに互いの距離が縮まっていく様には、胸が熱くなりました。

旅の中で何度かこみ上げてくる涙を、素直に流せたのもこの暖かい家族のおかげです。自分が長くこたわっている苦しい思いが、ふと移動中のバスの中でよみがえり、涙でにじむそのむこうにはっきり見えたのはこのバスの中に乗っている全員の方でした。

「大丈夫! 恐くないわよ! 私たちがいるじやない!」と、川の向こうとこちらにいて不安におののいて一歩が出せない私を、思いやりをこめてずいっと見守って下さっているのです。

私皆さんの暖かい心を献いて、「動こうと決めました!」それが嬉しくて……。

皆さん! 有難う! 皆さんと又いつかお会いしたいです。正気に戻った(戻ってるかなあ?) 私を見て欲しい!

致します。ご冥福を祈りますと共に、感謝申し上げます。高本 信子 九二年八月 (東京都港区)

物故者のお知らせ

支援者のなかで、当方で把握している物故者を掲載致します。

藤本 一臣 九五年三月 (東京都神楽坂区)
安藤 浩太郎 九七年九月 (秋田県雄勝市)
山田 茂樹 九七年十月 (新潟県加茂市)
山科 直治 九七年十月 (東京都品川区)

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。遺贈されている財産その他について説明を致します。ご協力を御願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本的財産の確保
基金を信託銀行・国債等で運用し、その果実(利息)でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。果実のようなものです。
- 基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が安定します。
- 基金へ寄附して頂いたお金は何十年何百年あともジャイチと共に樹木の蔭が残り続けます。
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費
基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで今必要な活動に使わせて頂く目的のものです。一年間のような春播きで秋に収穫して終わります。- 当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費
新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその応援費用として確保することを目的としています。
- 通常の予算(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で賄われる)では足りない時に臨時に集める目的の寄附金です。
必要時に皆様にお願いのお知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形でご寄附をお願いしております。何にご寄附下さったか、お教え頂きますと幸いです。もしも時に指定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

振込先 番号 (郵便番号 00510-4-65434)
銀行名 八十二銀行 丸の内支店 (番) 420577
口座名 財団法人日本農業研修協会の力
住所 〒388-0502 長野県小県郡武石村沖456
電話 0268-65-3465 FAX 0268-65-3583

尚、金額に関しては規定がございませんので、お振りお取りご自分で決めて下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、約な考えは如何でしょうか)

編集後記

昨年、はじめて「夏そば」を作ってみた。結果は惨憺たるもので、四〇〇%の収穫したのみに一五〇%の収穫したのみである。スズメは大いに満足したであろうが、ついに我が食卓には上らなかつた。松浦指導員の六年余りに渡るカカニ農場での新作導入への挑戦、その苦労がほんの少しわかったよう気がした。

本号は、新部署番号でお届け致しました。間違っている方は、お手数でも事務同までご連絡ください。(武石村 樹)



カカニ農場にて、イチゴを手にしたツアー参加者。後方は松浦浩義指導員